



# 山口宇部 医療センター だより



山口きらら博記念公園の大芝生広場から望む「きららドーム」と「日の山」（当院は、この向こう側にあります）

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

## 山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241

山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代)

FAX.0836-58-5219



<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>



# 健康づくりサポーター バンク活動

リハビリテーション科 理学療法士

石光 雄太

6月20日に、宇部市健康づくりサポーターバンクの活動として、おばやま人間ドックの開催に携わらせて頂きました。おばやま人間ドックでは、血圧や体組成、血管年齢のような基礎的な測定から、私たち理学療法士が日常的に実施している機能評価や問診票の方法を住民の方々に指導させて頂いたり、経年的に結果が入力できる様な Excel フォームを作成させて頂きました(図1、図2)。

その結果から、『運動機能が低いのか』、『栄養状態が低いのか』、呼吸器専門病院である特性を活かし『呼吸器の調子はどうか』といった3つのパターンに結果が分類出来るようになっていきます。また、それぞれの分類に健康・生活指導を踏まえたパンフレットを作成(図3)させて頂き、当日は測定結果からみた評価考察と共にパンフレットの配布をさせて頂きました。

この取り組みは、企画の段階から携わらせて頂いており、日本地域理学療法学会の『COVID19 関連情報』でも緊急事態宣言解除後の地域の取り組みとして取り上げています(同学会 HP 公開)。



図1: 当日の様子



図2: TUG測定風景

また当日は宇部日報さんも来られており、新聞にも取り上げられ、市民の方々に広報されています(図4)。

上記の様に健康に関する1人ひとりの興味・関心が高まることや、情報の発信は昨今のCOVID19(新型コロナウイルス)での外出自粛等による、生活環境の変化に対し、とても有意義と考えています。

今後も、理学療法士として皆様の御健康に対し、何か少しでも尽力させて頂ければと思います。最後にこの度はこの様な貴重な経験をさせて頂いたことを関連スタッフ、地域の皆様一同に深くお礼申し上げます。



図3: 身体機能に関するパンフレットの一部



図4: 宇部日報の記事

夏行事

# サマーアートフェスティバル

Summer Art Festival

保育士 中村琴美

令和2年7月8日(水)夏行事の開会式がありました。今年の夏行事はアート!ということで、みんなで1つのアート作品を作ることにになりました。テーマは“宇宙の平和”!?

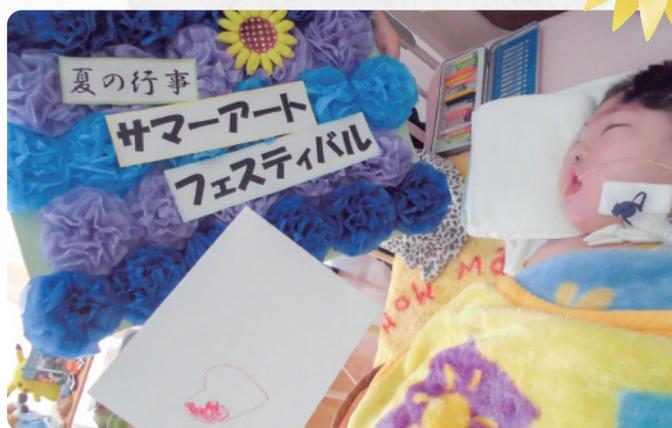
なぜこのテーマなのかというと・・・それは8月5日の閉会式が終わってからの楽しみ!

今回は新型コロナウイルスの影響もあり3密を避けるよう、デイルームに集まって参加してもらったり居室へ職員が訪問する形にしたりと2パターン行いました。

みんなでアートを完成させるため、7月8日以降の期間を「サマーアートフェスティバル」とし、療育活動の時間などを使ってアート制作に励んでいます!

8月5日の閉会式には宇宙の平和を守る!?絵が額縁に飾られる予定です。

どんな絵になるのでしょうか!楽しみです!!



# 緩和ケアチーム勉強会の開催にあたって

山口宇部医療センター 緩和ケア内科 緩和ケアチーム 緩和医療専門医 谷川 明希子

『緩和ケア』は、これまでは治療終了後より開始される「終末期医療」と認識されていましたが、現代では世界保健機関(WHO : World Health Organization)も定義するように、その目標は「生命を脅かす病に関する問題に直面している患者さんとその家族の苦痛を予防し和らげることで、生活の質(QOL : Quality of Life)を改善させる」ことにあります。

つまり、「終末期医療」ではなく、「病気と診断されたその時点から」開始され、病気や治療による様々な苦痛に対して支援を行うのが『緩和ケア』です。

苦痛には、痛みなどの身体のつらさだけでなく、不安などの精神的なもの、金銭面などの社会的支援が必要なもの、など様々なものがあります。患者さんを支えるためには、多方面からの支援が必要であり、そのためには医師のみでなく、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、リハビリテーション部門、地域連携スタッフ、など多職種が良好なコミュニケーションで連携し、患者さんを支援する必要があります。「診断時からの緩和ケア」を行うためには、緩和ケアを専門とするスタッフのみでは困難であり、病院全体が「患者さんを支える」ことを目標に取り組む必要があり、医療従事者一人一人が再度認識すべきことだと考えています。

また、患者さんの生活環境は自宅が主体であり、当病院以外の医療スタッフとの地域交流も重要であると考えます。

私たち緩和ケアチームは、多職種で構成され、主に一般病棟の回診で患者さんの支援と医療スタッフの教育・支援を行っています。緩和ケアチーム勉強会は2007年ごろより年3回、院内の医療従事者のみでなく、地域交流も兼ねて院外の医療従事者にも参加して頂き、緩和ケアの知識と意欲向上を図っています。2020年は新型コロナウイルスという不測の事態が生じ、患者さんご家族には面会制限という非常につらい対応をせざるを得ない状況にあり、医療従事者一同、心苦しく感じております。未曾有の感染症の状況ですが、医療は日進月歩の世界であり、病気にかかる患者さんの治療や支援に全力を尽くすためにも、医療者の知識と意欲向上は必要不可欠と考え、我々緩和ケアチームは感染対策をしっかりと行い、勉強会を開催させて頂きました。勉強会を開催するにあたり、多大な労力を費やして頂いた病院関係者の皆様、ありがとうございました。

今後も可能な限り継続して勉強会を開催し、医療スタッフの知識と意欲向上を行い、患者さんご家族によりよい支援を行えるよう、尽力して参りたいと思います。





緩和ケアチーム室 緩和ケア認定看護師 正木 克美

7月9日、皆様のご協力のもと今年度初の緩和ケアチーム勉強会を開催することができました。新型コロナウイルスの影響で昨年度末から2回の勉強会が延期となり、7月の開催も危ぶまれる声もありましたが、何度も感染リスク対策について緩和ケアチームメンバーでも詳細に話し合いを重ねて開催にこぎつけました。

今回の勉強会は、緩和ケア病棟看護師2人から事例紹介をしてもらいました。それぞれの事例を通して、緩和ケア病棟看護師がその都度多職種カンファレンスを行い、患者家族の価値観を大切にしようとする苦慮しながらもより質の高い看護や症状の緩和をしていることが手に取れるような事例でした。

感染対策上グループワークでの意見交換をすることはできませんでしたが、質問やご意見もいただき、またアンケートの集計からも「薬剤調整での疼痛コントロールは勿論であるが、環境調整や温罨法、気分転換を取り入れること、患者さんの生活歴や背景を理解して家族も一緒に巻き込んで多職種で介入することが大切であると学んだ」等の意見がありました。

最終的に院外から3名の他、院内からは看護師以外に医師・薬剤師等計33名の参加がありました。8月には、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)についての勉強会を予定しています。

感染対策を行いながら、今後も知識の向上を図り、患者家族へのより適切な医療を提供できるよう勉強会を開催したいと考えています。



# 褥瘡の評価・DESIGN-Rと 栄養管理について知ろう

NST委員 管理栄養士 後藤 由佳



令和2年7月13日、今年度の褥瘡・NST合同勉強会を開催しました。今年度はCOVID-19の影響により、参加人数40名以内で院内職員のみを対象としましたが、通常は院外からも参加可能な勉強会です。

テーマは2つで、①褥瘡(じょくそう)の評価・DESIGN-R分類の基本と状態に応じた治療法について、平澤 克敏(ひらざわ かつとし)乳腺・消化器外科医長よりご講演頂きました。褥瘡とは、寝たきりの状態をきっかけとして皮膚の血流が滞ってしまうことで生じる皮膚病変を指します。褥瘡は圧迫を受けやすいおしりや腰骨周囲、踵、肘などに生じることが多く、皮膚の赤みやただれ、ひどくなると潰瘍や細菌感染を生じる場合もあります。一般的には「床ずれ」と呼ばれています。より早期の段階から褥瘡の皮膚症状を発見し、重症化を予防することが重要です。当院でも「褥瘡対策チーム」が組織され多角的な褥瘡対策を実施しています。その時褥瘡を評価するために必要なアセスメントツールとして使用しているものが、日本褥瘡学会が開発した「DESIGN-R」です。「DESIGN-R」はDepth(深さ)、Exudate(浸出液)、Size(大きさ)、Inflammation/Infection(炎症/感染)、Granulation(肉芽組織)、Necrotic tissue(壊死組織)の頭文字を組み合わせて命名されました。さらに、ポケットがある場合は「-P」をつけます。DESIGN-Rでは「D(d)」以外の各項目の点数を合計して重症度を見ます。合計点が少なくなれば褥瘡は改善されていることとなります。平澤先生の講義では、「褥瘡を評価する」ための

共通の基本をより詳しく画像を交えてご説明頂けるため、何度受けても勉強になるお話です。

次に②褥瘡の原因・予防・治療と栄養管理の重要性について、森永乳業グループ病態栄養部門 株式会社クリニコ 舛本 和太(ますもと かずひろ)先生よりご講演頂きました。実際の褥瘡ケアの取り組みの中でも重要なものの一つに、栄養管理があります。

当院には、褥瘡委員会とNST(=Nutrition Support Team=栄養サポートチーム)委員会があり、それぞれ1回/週の病棟回診を実施しています。メンバーは医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士(褥瘡)言語聴覚士(NST)、管理栄養士です。様々な職種が専門的な知識を持ち寄り、入院患者様の治療が円滑に進むようチーム医療を行っています。褥瘡予防のため、また褥瘡発生後の栄養管理の基本は低栄養の改善です。当院NSTでは、NST回診とは別に入院から1週間以内の全患者についてAlb3.0g/dl以下かつBMI18.5kg/m<sup>2</sup>未満のスクリーニングを実施し、医師、看護師、管理栄養士でNSTスクリーニング回診を実施しています。これは、より早期に低栄養患者を抽出し、栄養の改善を図るためです。継続的に栄養管理の必要な患者に対しては、NST回診が実施されます。チーム医療の効果を発揮するべく、実演等も交えた勉強会を開催して、褥瘡・NSTの知識を広めていきたいと考えています。

今後もより実践に即した勉強会を実施していきたいと考えておりますので、チャンスがあれば是非ご参加ください。

## 栄養サポートチーム(NST)のご紹介

『栄養サポートチーム(以下NST=Nutrition Support Team)』とは、様々な職種が栄養管理における専門的な知識を持ち寄り、入院患者様の治療が円滑に進むよう栄養面からサポートするチームです。

**活動目的** 患者様の状態に見合った栄養管理を行い栄養状態の改善を目指します。栄養状態を改善することで感染症や褥瘡(床ずれ)を予防し、傷の治りを促進するなど治療やリハビリがよりスムーズに行えるよう手助けします。

**主な活動内容** 主治医より依頼を受け、適切な栄養摂取方法の検討、口から食べることを目標に栄養状態の改善を目的とした経腸栄養の検討、血液検査や身体計測などによる栄養状態の評価、栄養治療計画の見直しなどを行ないます。特に、栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して、回診やカンファレンスを通じて、栄養管理に関する様々な提案を行っています。栄養に関する質問等がありましたら当院NST委員会へご連絡ください。

●回診:毎週金曜日 15:00~

| 職種     | メンバー | 役割   |
|--------|------|--|
| 医師     | 平澤   | チームの責任者、対象者の病状の把握、主治医との連携                                      |
| 管理栄養士  | 後藤   | 栄養アセスメント、モニタリング、必要栄養量算出、食事内容・食形態調整<br>主治医・病棟との連携、患者様・ご家族への説明など |
| 看護師    | 中岡   | 病棟看護師との連携、リンクネースの統括<br>栄養管理上必要な看護・ケア                           |
| 薬剤師    | 井筒   | 対象患者の使用薬剤確認、栄養輸液の検討、病棟薬剤師との連携                                  |
| 臨床検査技師 | 津田   | 検査データの読み取り、窒素バランス測定  |
| 言語聴覚士  | 伊藤   | 嚥下機能評価(経口摂取継続の判断)、食形態調整  |



## 病院と共に ～永年勤続表彰～

国立病院、国立病院機構へ入職以来、病院運営、医療を長きに亘り  
誠実に勤務された節目の20年目、30年目の職員へ表彰を行いました。

当院の中心的な役割を担うスタッフであり、  
今後も患者に寄り添う医療、看護の提供に努めてまいります。

●日時：令和2年4月2日(木)9:00～

●場所：小会議室

### 30年以上勤続の方

### 20年以上勤続の方

|        |         |       |
|--------|---------|-------|
| 経営企画室  | 経営企画室長  | 石野 孝二 |
| 企画課    | 契約係長    | 下川 泰史 |
| 臨床検査科  | 臨床検査技師長 | 西村 俊直 |
| きらら西病棟 | 看護師     | 今原 陽子 |
| 緩和ケア病棟 | 看護師     | 山口 節子 |

|        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 企画課    | 業務班長  | 原田 直孝 |
| きらら東病棟 | 副看護師長 | 上鶴 裕子 |
| きらら西病棟 | 副看護師長 | 中岡 篤美 |

# 外来診療担当医表

令和2年8月1日 現在

| 診療科       | 概要                       | 月                                | 火                        | 水                                 | 木                                | 金                        |
|-----------|--------------------------|----------------------------------|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 内科新患外来    |                          | 担当医                              | 山路 義和                    | 水津 純輝                             | 池田 顕彦                            | 角川 智之                    |
| 内科紹介外来    |                          |                                  | 亀井 治人                    | 亀井 治人                             |                                  | 亀井 治人                    |
| 内 科       |                          |                                  | 石田 浩一                    |                                   |                                  | 石田 浩一                    |
| 呼吸器内科     |                          | 伊藤 光佑                            | 坂本 健次<br>恐田 尚幸<br>筑本 愛祐美 | 池田 顕彦<br>恐田 尚幸<br>末竹 諒<br>筑本 愛祐美  | 大石 景士<br>坂本 健次<br>村田 順之<br>伊藤 光佑 | 坂本 健次<br>上原 翔<br>末竹 諒    |
| 腫瘍内科      | 抗がん剤治療<br>肺がん等           | 前田 忠士<br>近森 研一                   | 青江 啓介<br>宇都宮 利彰          | 近森 研一                             | 前田 忠士<br>宇都宮 利彰                  | 青江 啓介                    |
| 画像診断科     | 画像診断等                    |                                  | 松本 常男                    |                                   |                                  | 松本 常男                    |
| 呼吸器外科新患外来 |                          | 井野川 英利                           |                          | 沖田 理貴                             | 林 雅太郎                            |                          |
| 呼吸器外科・外科  | 肺がん                      | 林 雅太郎<br>沖田 理貴<br>岡田 真典<br>川本 常喬 |                          | 井野川 英利<br>林 雅太郎<br>岡田 真典<br>川本 常喬 | 井野川 英利<br>沖田 理貴<br>川本 常喬         |                          |
| 乳腺・消化器外科  | 胃がん・<br>大腸がん等            |                                  |                          | 平澤 克敏                             |                                  | 平澤 克敏<br>(午後・新患のみ)       |
| 循環器内科     | 心臓・高血圧等                  | 佐伯 幸男                            |                          | 佐伯 幸男                             |                                  |                          |
| 緩和ケア内科    | ※完全予約制                   | 小笠原 啓子                           | 谷川 明希子                   |                                   | 小笠原 啓子                           |                          |
| 放射線科      | 画像診断・<br>放射線治療等          | 田中 伸幸<br>田口 耕太郎<br>小林 大河         | 田中 伸幸<br>田口 耕太郎<br>小林 大河 | 田中 伸幸<br>田口 耕太郎<br>小林 大河          | 田中 伸幸<br>田口 耕太郎<br>小林 大河         | 田中 伸幸<br>田口 耕太郎<br>小林 大河 |
| 小 児 科     | 障害児外来<br>※紹介予約患者のみ<br>診察 |                                  |                          | 奥田 裕美                             |                                  | 沖野 文子                    |
| 精神・神経内科   | てんかん等                    | 小野 光弘                            | 小野 光弘                    | 小野 光弘                             | 小野 光弘                            | 小野 光弘                    |

※下記診療科は入院患者のみ診療

|         |            |  |       |        |  |       |
|---------|------------|--|-------|--------|--|-------|
| 消化器内科   | 内視鏡等       |  | 山本 直樹 |        |  |       |
| 整形外科    | リウマチ・骨粗鬆症等 |  |       |        |  | 今城 靖明 |
| 歯 科     |            |  |       | 竹縄 隆徳  |  | 原田 耕志 |
| 耳鼻いんこう科 |            |  |       | 樽本 俊介  |  |       |
| 神経内科    |            |  |       | 山中 菜々美 |  |       |

① 外来受付時間: 午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間: 午前8時45分～】

※内科新患外来: 午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来: 午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

